

竜の子 奨学生

TATSUNOKO NEWSLETTER



Contents

- P.2** 一語一会
「健全な精神に健全な命が宿る」
- P.3** 第27回交流会レポート
(第8回卒業式)
- P.5** 第27回交流会レポート
(第9回贈呈式)

その夢は、きっと世界を変えていく
The dream surely changes the world.



- P.8** 平成27年度新入生紹介
- P.11** 竜の子近況報告
- P.13** 竜の子(OB・OG)近況報告
- P.15** SPECIAL REPORT
- P.16** 編集後記

第16号
Aug.2015

健全な精神に健全な命が宿る

これは、私が尊敬してやまない中村天風先生の言葉です。趣旨は、健全な肉体に健全な精神が宿るのではなく、健全な精神があつてはじめて健全な命（肉体・健康も含みます）を得られるのだという意味です。健全な精神とは、積極的な精神、即ち、何かあつても平静を保ち、何ものにも動じない心のことです。

天風先生は、日清・日露戦争で軍事探偵（今でいうスパイ）として活躍し、九死に一生を得て帰国しますが、その後、当時は不治の病と言われていた結核を患い、病を恐れることにより、かつての強い心を失ったことを心から悔しく思い、世界中の偉い学者を訪問して強い心を取り戻す方法を尋ねますが、誰も答えてくれません。全てに失望して、日本に死ぬ為に帰る途中、エジプトのアレキサンドリアで、偶然、ヨガの大聖人に出会い、ともにインドに入り、3年間の修行の末にヨガ哲学を自らのものとし、強い心と体を取り戻し、その後、昭和42年に92歳で亡くなるまで、天風哲学（心身統一法といいます）を説いた方です。お弟子には、東郷平八郎、原敬（元首相）や松下幸之助など数多くの方々があります。私は、11年前に天風先生の講演内容を記載した本を読むことで感銘を受け、以後、先生の著述されたものを全て購入し、毎日読むとともに、自分なりに実践しています。また、機会があるごとに、お会いした方達に対して天風哲学を紹介し、お勧めしています。

心身統一法とは、心は心の正しい用い方に従い、身体は身体の正しい用い方に従い、心と身体を統一的に使うことにより、また、常に積極精神を保ちながら尊く強く正しく清く生きることにより、正しい人生を送ることができ、運命も健康も正しく（＝良く）なるという哲学です。

そして、その為には、まず、心を強くし、常に強く保っていかなければなりません。どんな困難にぶつかっても、「何くそっ、負けるものか。」という強い気持ち（勇氣）を出して突破していくのです。

また、いざという時に、そのような強い心を出すためには、日常の心構えや行動がとても大事なことになります。

詳しくは、天風先生の著述されたものをお読み頂くしかないのですが、概要を述べれば、①常日頃から、恐怖、不安、憎悪、嫉妬などの消極的な観念要素を更改して、人間の知識や言動の元になる記憶の倉庫である潜在意識をきれいにする（怒らず、恐れず、悲しまずに生き、正直、親切、愉快に生きることをモットーとし、「弱った」とか「困った」などの消極的な言葉は使わない等）。②積極的な観念を養成する（他人からのマイナスの言動などの暗示を分析し、自分の心の中を反省・検討し、人と交わるとき態度を明るく元気にし、取越苦勞は絶対にせず、正義を実行する＝本心・良心に背く行動はとらない等）。③神経反

射の調節を行う（小さなショックを、心に大きく伝えない）等々というものです（詳しくは、財団法人天風会「真人生の探究」、成功の実現」、PHP研究所「幸福なる人生」等々、天風先生の多数の著述を参照して下さい。この文章も、それらの著述から、内容・表現ともに多くを引用させて頂きました）。

私は、冒頭の言葉は、この天風哲学を端的に表しているものと思います。「良いことがあったから元気にする。」のではなく（それは、凡人の行うことです）、健康や運命が悪いときも、強い心を持って平常心を失わずに、そんなときこそ却って明るく元気にしていれば、必ず健康も運命も良くなるのです（「それが真人（悟りを開いた人）の行動である。」と天風先生は言われます）。

人生には、いつ、どんな災いが降りかかってくるかわかりません。弁護士の仕事は、人と人との争いの中に入って行く仕事です。依頼者の中には、相手方を強く憎んでいる人もいます。そのようなときに、自分も憎悪の心を持ってしまうと、運命や健康がマイナスになってきます。弁護士自身が、争いに巻き込まれてしまうことも、場合により生じてくることがあります。また、それ以外にも、人生には、様々なトラブル、困難が待ち受けています。しかし、そんなときでも、「何くそっ。この程度のことでは負けるものか！」と思って頑張るのです。私も、そのように対処することで、何度も救われてきました。正に、天は自ら助くる者を助けるのです。現在は、このように考え、行動することで、毎日とても幸福に過ごせています。そのような自分になったことを心から感謝しています。

皆さんも、これから社会の中で、どんな辛い目にあうかもしれませんが、そんなときに、どうか、この言葉を思い出して頑張ってください。毎日を、幸福と感謝で過ごせるようになることを、心からお祈りしております。

弁護士 吉田 修平

■略歴

1952年6月19日生まれ。早稲田大学法学部卒業、1982年弁護士登録、第一東京弁護士会入会。1994年東京家庭裁判所調停委員。2007年政策研究大学院大学客員教授。2005年事業承継関連相続法制検討委員会委員（経済産業省）。2011年マンションの新たな管理ルールに関する検討委員会委員（国土交通省）など、外部活動多数。

主な著書：『最近の不動産の話』（金融財政事情研究会）、『不動産相続の法律実務』（学陽書房）

他に共著、共同編集、論説など多数。



「一語一会について」

竜の子奨学生にとって、財団関係者からの励ましの言葉は、大変貴重なものです。そして、竜の子奨学生には、その言葉は一生に一度の出会いであると心得て、そこから多くのことを学んでほしいという願いを込めて、このコーナーを「一語一会」と名付けました。

ご寄付いただいた皆さまへ

竜の子奨学生を代表して、寄付者の皆様にお礼の言葉を申し上げます。私達は母国から日本に離れて、自分の夢を叶えるために留学しました。実現するまでの道は平坦ではなく、様々な困難なことがありました。竜の子財団の経済的、精神的な支えにより、私達は勉強や研究を進めることができました。ご支援してくださった皆様への気持ちを忘れずに、いつか私達の夢を実現できる時には、寄付者の皆様をはじめ、社会全体にご恩返しいたします。

（平成26年度竜の子奨学生 トーブラサーボン タナワット）

第27回交流会レポート

平成27年3月17日(火)、竜の子奨学生11名が財団を卒業する日を迎えました。卒業生は着物姿で入場し、秋元理事長からの式辞の後、日本和装ホールディングスの吉田重久社長からも温かいお祝いの言葉をいただきました。次に在籍奨学生を代表としてシャリアズ・エムディーさんからの送辞を述べ、最後に卒業生代表の答辞で李大英さんが寄付者および関係者の皆様へ心より御礼を申し上げます。

● 第8回卒業式 ●

式辞

秋元 竜弥 理事長

本日卒業の11名の皆さん、卒業おめでとうございます。卒業生の皆さんと共にした交流会は思い出に残っています。今日でお別れというのはとても寂しい気持ちになります。交流会の中でも一番印象深い交流会は国立劇場での歌舞伎を鑑賞した時です。皆さんは初めての歌舞伎鑑賞を最初から最後までずっと見ていましたけれども、私は当日、風邪をひいてしまいつらかったと覚えています。その後の食事会で不覚にも寝てしまいまして、私の寝ている姿を皆で写真を撮っていたことを後から聞きましたが、その思い出が強く残っています。

本日、この華やかな着物を提供していただきました日本和装ホールディングスの社長、また着付けの先生の方々、本当にありがとうございます。卒業生にとってとても良い思い出になると思います。今回の卒業生は、全員が社会人になるようですが、社会人になると不合理なことや矛盾することがあると思います。ただ、皆さんは自分なりの「幸福感、生き様、志、信念」をしっかり自分の中で設定して社会に飛びだして下さい。他人と比較することは一番不幸の原因になります。自分自身をしっかり築き上げ、設定して、他人と比較することなく、自分の意思をしっかりとって社会に飛びだして下さい。

ご挨拶

日本和装ホールディングス

吉田 重久 社長

本日はこのような交流会に招いていただきありがとうございます。卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。今日着物を着てみていかがでしょうか。我々日本人にはこの着物が第



式辞を述べる秋元理事長

一礼装です。日本の総理大臣が国連でアメリカを訪問した際にこの着物を着ていただきました。私はこの着物を広めようという仕事をしています。竜の子財団関係者の皆様、いつも素晴らしい支援だと思っています。

私の話になりますが、子どもが4人おりまして、3人が海外で勉強しています。子どもから連絡をもらうたび、とても心配です。その時、必ず秋元理事長のことを思い出し、秋元理事長が皆さんを支えていることを誇りに思います。海外に留学して一番苦しい時の支えになりたいと心から思っていました。一個人では難しいので、竜の子財団を通して皆さんを少しでも支援できればと思います。最初、秋元理事長にこの支援のお話をいただいた時には鳥肌が立ちました。是非、皆さんには竜の子財団の理念でもあるアジア諸国、また世界との架け橋になってほしいです。困ったことがあったら秋元理事長に連絡して下さい。私も一緒に応援したいと思います。卒業生の皆さん、本当におめでとうございます。

送辞

立命館アジア太平洋大学 シャリアズ・エムディー (バングラデシュ)

まず、今日この立場に立つ機会を与えていただいたことに感謝します。そして、この場で、理事長をはじめ、私たちがこの竜の子財団奨学金を受け取ることが可能にくださった寄付者の皆様に、心から感謝を申し上げます。この1年、竜の子財団の方々の協力のおかげで私自身の夢に向かって前進できるよう、今は教師になるという夢を持ってここに立たせていただいています。近々私は、大分市の上野ヶ丘高校というところで、初めて、高校生を導くリーダーとして、キャンプに参加します。このキャンプでは、将来リーダーとして希望ある未来に繋げられるよう、高校生達にコミュニケーションの大切



送辞を送るシャリアズ・エムディーさん



ご挨拶する吉田社長

さなどを教えます。竜の子財団の後押しなしでは、私はこのキャンプに、リーダーとして参加することはできなかったでしょう。一年前、皆さんとこの場に出席したとき、私は理事長の言葉にとっても感動し、影響を受けました。それは、人生は困難に満ちているけれど、私たちはいつもこの困難に立ち向かい、未来のために自分たちで道を切り開いていかなければならないという内容の言葉でした。このような言葉で導いてくださる理事長のもと、前に進める私たち竜の子奨学生はととても幸運だと思います。卒業生の皆様と過ごした1年間はととても素晴らしい時間でした。空手の選手権を観戦しに行ったり、歌舞伎を観に行ったり、日本に来て初めての文化体験を通し、良い思い出がたくさんできました。しかし、今日で別れを告げることも寂しいです。

竜の子財団のキャッチフレーズである「その夢はきっと世界を変えていく」を忘れず、自分の夢の実現に向かってこれからも頑張ることを信じています。秋元理事長の話でもありましたが、人生には様々な苦難が待ち構えていると思います。しかしこの苦難は、夢に向かって進む人だけが経験するものだと思います。卒業生の皆様が、いつも竜の子の精神で、周りの人々の夢にも良い影響を与える社会人になることを信じています。社会人になっても、皆様のご活躍を心から祈っています。

答辞

北海道大学大学院

李 大英 (韓国)

竜の子奨学生の卒業生代表として、感謝の言葉を伝えることができ嬉しいです。この場に立つことができるように、これまで励ましの言葉と笑顔をもって、温かい支援をしてくださった、秋元理事長をはじめ、寄付者の皆様、関係者の皆様に感謝の言葉を申し上げます。

私が竜の子財団の奨学生になったのは今から5年前のことです。そのときは北海道大学学部1年目が終わるころ、母国の父の事業が倒産し、現実的に学業を続けることが厳しい状況でした。そのときに会った竜の子財団のみな様のおかげで、夢を持ち続け、無事に学業を終え社会に進むことができました。

竜の子財団は、このような経済的な支援だけでなく、精神的にも大きな支えになってくれました。日々忙しい研究のため、日本にいてもなかなか日本の文化に触れるチャンスもないし、経済的な余裕ももちろんない状況でし

た。しかし竜の子財団のおかげで、空手の体験や歌舞伎や能の観賞など、私の研究室にいる日本人の学生でさえ観たことがない貴重な体験ができました。さらに、竜の子財団はボランティア活動にも参加できるチャンスを与えてくれました。東日本大震災（宮城県女川町）でのカレー作り、障害者のスポーツを応援するスポーツオブハートでのボランティアを通して、自らも社会に役立つ一員として存在できる喜びを感じさせてくれました。

このような交流会・ボランティア活動の中で、私にはもう一つ期待することがありました。それは、竜の子奨学生の皆さんとの交流です。竜の子奨学生の皆さんは、それぞれ国籍や専門分野が異なりますが、日本で自分の確かな目標を持ち頑張る姿は同じです。お互いの異なる研究内容を話し合いながら、ときにはお互いの苦労話もしながら、自然にお互いの夢とビジョンを再認識し、自分の位置を再び整える有益な時間になりました。すなわち、竜の子財団の色々な行事を通して、もっと頑張れる力を得ることができたのです。

夢を持って来日した私が、竜の子財団と出会って、そして皆様の愛を感じられたからこそ、自分がこのように成長できたと思います。これから私は健康食品の研究・開発に携わります。この仕事の中で目指す夢その目標は、母国にいる両親、そして皆さん、また世界の人々が健康で豊かな生活ができるようにサポートすることです。引き続き努力し夢をもって頑張る竜の子奨学生のOBとなり、さらにこの世の中が明るくなるように頑張ります。



答辞を述べる
李大英さん



● 第9回贈呈式 ●

同日、京王プラザホテルにて第9回贈呈式が開催されました。第9期は11名の留学生たちが、新たに竜の子奨学生として迎え入れられました。秋元理事長と横田副選考委員長から温かいお祝いの言葉を頂きました。ソルヤーさんが新入奨学生を代表して感謝の気持ちとこれからの決意について話してくれました。

式辞

秋元 竜弥 理事長

新しく竜の子奨学生になられた11名の皆さん、初めまして。3月に入って一番良い天気にも恵まれました。これは天候も皆さんを歓迎していることだと思います。

日本には年間約18万人の留学生たちが来日しております。その18万人の学生の中で、民間の奨学金をもらえる方がどのくらいだと思いますか。これは僅か14パーセントのようです。すなわち皆さんはその14パーセントに当たるいい機会をものにした学生さんということになります。そしてその18万人の留学生の中で、約80パーセントの方々が、この日本の物価高の中で生活が大変なようです。学業をしながら働いている学生は学業どころか、アルバイトのほうが大変ということもあり、ほとんどの方が自分たちの夢を諦めて母国に帰ったり、もしくは学校を辞めたりするのが現状です。新入生11名の皆さん、この恵まれた機会、チャンスをぜひ学業に費やして、皆さんの夢を是非叶えて下さい。将来、日本とアジア諸国との架け橋になり、また、世界の平和と社会に貢献できるような人材にぜひ育てて下さい。

選考結果報告

横田 敦子 副選考委員長

私の方から竜の子奨学金の選考結果を報告します。竜の子財団では、平成27年度奨学生22名を採用しますが、そのうち7名分は既に竜の子奨学生としてそれぞれ進級した学生の継続分です。その結果15名の採用分が27年度の選考の対象となりました。延長採用学生として大学院生4名から、また、新規採用学生として国内の10の大学から推薦を受けた学部生、大学院生20名からそれぞれ申請書類が提出されました。選考委員会では、選考基準を定め、申請書類により学業成績、経済状況、それから留学目的などについて慎重かつ厳正に審査を行いました。その結果、延長採用大学院生4名と新規採用学生11名の選考を決定いたしました。この新規採用学生が晴れて竜の子奨学生



選考結果を報告する
横田副選考委員長

になられた第9期生です。いずれの奨学生も明確な留学目的を持ち、苦しい経済状況にありながら、学業に励み、優れた成績を上げている奨学生であり、竜の子財団の目的に沿った奨学生が選ばれたと確信しています。新たに竜の子奨学生となられた皆さん、心からおめでとくと申し上げます。竜の子財団は、これから皆さんにとって日本の家庭であり家族です。経済的な支援だけでなく、精神的な支えとなり、また様々な活動を通して皆さんの視野を広げる助けともなるでしょう。どうぞ健康に気を付けて、有意義な留学生生活を送って下さい。

新入生代表挨拶

東京外国語大学大学院

ソルヤー(中国)

私は中国内モンゴル自治区ホロンバイル出身のモンゴル人として、モンゴルの民族衣装、服飾文化について少しでも貢献したいと願っています。博士論文では、文化人類学と地域研究の方法を中心としてモンゴルの民族衣装、服飾文化が20世紀以降、いかに変容から再生発展してきたのか？また、それがモンゴルのサブグループのアイデンティティーとどのような関係を持っているのかについて考察し、検討しています。博士課程として貴重な大学生活は、竜の子財団の皆様にも支えられ、理事長をはじめ、関係者の方々に感謝の気持ちを常に持ち、しっかりとした研究を行い、その成果を皆様に還元したいと思っています。また博士号を取得したら、帰国して母国の大学に勤め、日本で学んだ知識と経験を活かし、授業で教えながらモンゴルの民族衣装を含む民族文化の研究を進めていきたいと思っています。また、日本と内モンゴルとの文化交流活動や学術交流活動に携わっていきたくも思っています。



新入生を代表してスピーチするソルヤーさん

● 祝 賀 会 ●

贈呈式に続き、祝賀会が開催されました。ご来賓の山下様及び緑様からスピーチをいただいた後、卒業生の代表より感謝の言葉を述べました。Rio様の歌により勇気づけられた後、相浦様から示唆に富むスピーチをいただき祝賀会が終了しました。

式辞

理事長 秋元 竜弥

竜の子財団は今年で10年目に入ります。しかし、2007年に当財団を設立した直後にサブプライム危機及び2011年の東日本大震災でアルデプロが膨大な打撃を受けました。当時財団の運営を維持するために、アルデプロの営業所を閉鎖し、そして財団の規模も縮小することにもなりました。

そんな人生で一番辛かった時期に私を癒してくれたのが当財団でした。また関係者皆様の励ましのおかげで私は3年間でアルデプロを再建しようと決意しました。そしてようやく去年にリーマンショックの負の遺産をなくし、無事にアルデプロを再建することができました。今までご支援をくださいました皆様、誠にありがとうございました。

これから10年、20年とまた様々なことがあると思いますが、今後も当財団のことをよろしくお願いします。

送辞

東海大学副学長

山下 泰裕様

秋元理事長のお話を伺うと、私は初めて理事長にお会した時のことを思い出します。その時に熱々と竜の子財団のビジョンを語られたアジアの国々への深い思いを感じ、誠に感動しました。

今まで竜の子財団で多くの奨学生が育成され、これからも益々多くの奨学生が育てられて行くと思います。奨学生の皆さんが自分の夢を成し遂げ、そして将来にそれぞれの祖国と日本の間の架け橋になれることを期待しております。

人生には順調な時もあるが、様々な挫折を経験することもあると思います。奨学生の皆さん、これからは数多くの試練の中、前向きな姿勢で感謝の気持ちを込めて人と支えあいながら頑張ってください。

理事長のご支援への感謝とともに、竜の子奨学生がこれから学業に専念しながら、夢に向かってチャレンジして行くことができるようお祈りします。



山下 泰裕様

来賓挨拶

緑 健児様

竜の子財団が設立してからのこの10年は非常に辛い時もあったと思いますが、ずっと必死に竜の子財団を守ってくださったのは秋元理事長と関係者の皆様だと思います。

そして一番辛い時期を経験したにもかかわらず、竜の子財団の活動だけでなく、諦めずに空手の練習にも来てくれた理事長を深く尊敬しております。

竜の子財団の卒業生の皆さん、そして新たにご入学した奨学生の皆さん、これからは是非竜の子財団で培った精神で、仲間とともに前向きに試練を乗り越えていって下さい。



緑 健児様

卒業生代表挨拶

東京芸術大学 イ スンヒョウ (韓国)

おかげさまで、東京芸術大学博士課程無実卒業することになりました。今、2つの嬉しいことがあります。一つは学生生活がやっと

終わりました。それよりも嬉しいと思っているのは社会人としての第一歩を皆さんと一緒に始めさせていただくことです。学生を始めたのは2011年でちょうど東日本大震災のあった頃です。4年前のことですがはっきり覚えています。その時、私は3月12日に引越しの予定でした。その前日に震災がありました。本当に大変な思いで、苦しい思いをしましたが、先ほど秋元理事長の言葉を聞いて、今まで私が苦しんだことは小さなことだったと思いました。竜の子財団のおかげで、本当に様々な経験をさせていただき、学校も勉強も続けることで、無事卒業できました。今年から、就職せずに起業すること決め、アート関係の仕事をこれから始めます。今まで本当に4年間勇気づけられ、支えられました。卒業生を含めて、奨学生の皆が本当にそう思っています。秋元理事長と竜の子財団の方々、本当に感謝いたします。



卒業生代表
イ スンヒョウさん

名古屋大学大学院

許 臨場 (中国)

博士後期課程を無事3年で修了し、来日から目標としていたと博士号を取得することができました。目標達成ができたのはこの竜の子財団に寄付をしてくださった皆様、この竜の子財団で出会えた仲間達のおかげです。全ての皆様に感謝をしたいと思います。

私が初めて日本に来た時から、楽しいことはもちろん、大変な事や苦しいこともたくさんありました。留学の10年目には、博士論文を提出するのが大きな壁でした。この1年間はまるで引きこもりのような生活をしていると言っても過言ではありません。しかし、私を外の社会と繋いでくれたのはこの竜の子財団でした。竜の子財団のおかげで、私の10年前の夢をかなえることができました。

この4月から次の夢に向かって、新しい一歩を踏み出すこととなります。それは研究職につき日本語の研究者と日本語の教師になるという夢です。途中には壁にぶつかることがあっても、今の私にはそんな時に支えてくれる仲間がいます。きっとこの夢も叶えられます。



卒業生代表
許 臨場さん

東京海洋大学 呂 思文 (中国)

8年前に私は大きな期待と不安を胸に抱きながら日本に留学し、最後まで頑張ろうと思いました。家は豊かでないため、自分でアルバイトをしながら、学校に通おうと思いましたが、現実は難しかったです。ところが、大学3年生の時に竜の子財団奨学生として採用され、本当に幸せだと感じ、心より感謝しました。

今までもはっきり覚えています。2011年に私が竜の子財団贈呈式に参加した2日後に東日本大震災が起きました。竜の子財団での初めての活動は被災地へのボランティア活動でした。その時から人間はお互いに思いやりがあり、お互いに励まし合うことにより強い力が生まれる事を真剣に理解できました。社会に恩返し、周りの人を幸せにするのが自分の責任であると思っています。



卒業生代表
呂 思文さん

ゲスト

シンガーソングライター Rio様

卒業生の皆さんは培ったつながりを大切に大きく羽ばたいてほしい。現役の皆さんは素敵なつながりを作りながら大学生活を送って下さい。僕はつながり以上に大事なものに会ったことがありません。だから、つながり以上に大切なモノはありません。一つのつながりを大事にできない人はたくさんのつながりも大切にできません。すべてのつながりを大切にする前に一つ一つを大切に、たくさんのつながりを作りながらこれからの人生を過ごして下さい。



Rio様

閉会のごあいさつ

GMOペイメントゲートウェイ株式会社 代表取締役社長 相浦 一成様

秋元理事長とお会いしたのは今から10年前です。その時から、秋元理事長は困難にずっと立ち向かっています。しかし、自分前には自分が解決できない問題は絶対起こらないと思う事が大事です。私はどんな困難な問題が立ちまわっても正々堂々と勝負をすることが秋元理事長の伝えたいことだと思います。

2つ目は目標です。ハーバードの卒業生100人に聞きました。そのうち87人が目標を持っています。さらに10人が明確な目標を持っています。またさらに3人が明確な目標を紙に書いて、ベッドの上に貼って、見えています。その10年後、明確な目標を持つ人は87人の年収より倍になっていました。さらに3人は87人の年収より10倍になっていました。年収とは、自分のパフォーマンスに対する対価です。目標を持つのはものすごく重要です。

3つ目はIQとEQです。IQだけ高ければ、世の中を渡っていきません。重要なのは愛嬌とIQを高いレベルでバランスよくたもつことです。人に優しい心で、思いやりをもって接することは、成功への近道です。秋元理事長の優しさや思いやりを学んで下さい。

最後に私の好きな言葉を皆さんにお贈りします。それは「夢のある人に目標あり、目標のある人に計画あり、計画ある人に行動あり、行動のある人に成果あり、成果のある人に自信あり、自信ある人に夢あり」です。



相浦 一成様



平成27年度新入生紹介 新竜の子奨学生たちの「尊敬する人物」

学びは真似をすることから始まる、とされているように、自分が夢見ている自画像は「尊敬する人物」と無縁ではないでしょう。夢に向かって全力で走っている奨学生たちにとって、竜の子財団は精神的、経済的に支援してくれるガソリンです。目的地がどれだけ美しくても、ガソリンが足りないと到達できません。十分なガソリンをもらった新入生たちに、「尊敬する人物」について語ってもらいました。



マ センキ
馬 千駒

(中国・広東省出身)

北海道大学

法学研究科

民法専攻 修士課程2年

私が幼い頃から最も尊敬してきたの、リンカーン元アメリカ大統領です。

リンカーンは貧しい家庭に生まれたが、最も偉大な大統領の一人として、世界に誇られてきました。無数の困難と失敗を乗り越え、彼は自分の正義を貫き、この世を変えた。彼の奴隷解放宣言は、奴隷制の廃除の鐘を鳴らしました。

彼は弁護士を長く務めたが、法学を勉強している私にとっては、リンカーン大統領の人格的魅力と法律人としての魅力に強く惹かれました。彼は独学で法律知識を身につけ、しかも苦しい生活を送しながら勉強し続けた。また、大統領になるまで、無数の失敗を経験してきました。その根強さと勤勉さは、ずっと私を励まし続けています。



チョウ クン
張 勲

(中国・遼寧省出身)

北海道大学 水産科学院

海洋生物資源科学専攻

博士後期課程3年生

4年前に友達に紹介され、日中友好協会で行われたバーベキューに参加しました。そのとき、ある中国語が上手な日本人が私に深い印象を与えました。最初は中国人だと思ったが、彼と話しているうちに、彼は函館日中友好協会の会長東出先生だということがわかりました。

彼は1995年に自ら「隗報」という、日本人に中国のことを紹介する新聞を創刊した。また、彼はさまざまな面で中国人留学生を助けてあげました。中国人留学生としての私たちはみんな東出隆司先生に心から感謝と尊敬という感情を抱いています。

来年、博士課程を卒業して帰国した後、東出先生のような日中友好のために生涯を捧げる人になりたいと思います。



ケン エ
権 慧

(中国・山東省出身)

東京大学大学院

人文社会系研究科

アジア文化研究専攻 博士3年

尊敬する人というテーマで文章を書こうとしたら多く人の顔や昔の感動された出来事が頭に浮かびました。ツイッターで「あなたの尊敬する人は誰」とみんなに聞いたら、答えが様々であって、そのなかには漫画のキャラクターのルフィも現れました。

私は今まで出会った全ての縁に感謝しており、やはり自分は恵まれている人間だとも思っています。幼い頃自分を育ててくれた祖父母、学校で知識を教えてくれた先生、文学が好きになるよう導いてくれた村上春樹さん、留学生生活を支えてくれた両親や竜の子財団の関係者の方々、私の夢を実現するため応援して下さった方々、また周りの人のために力を惜しまず人、自分の持っているものを迷いなく人にシェアする人など多くの人を尊敬しています。また、いつか自分も文学の夢を実現して、その夢を通して尊敬される人になりたいと思い、日々頑張っています。



ソルヤー

(中国・内モンゴル出身)
東京外国語大学大学院
総合国際学研究科
国際社会選考 博士2年

私にとって、祖父である郭文通は特別な存在です。故郷では、祖父は民族的英雄として知られ、『私達の興安回想』等日本の本の中にも登場し、かつて沢山の日本人の命を救った軍人として讃えられ、中華人民共和国の成立後、祖父は内モンゴル自治区の指導者の一人となり、周恩来首相から任命書が与えられました。しかし、文化大革命の時、祖父は冤罪で殺害されました。文化大革命が終わった後、祖父の名誉回復ができました。讃えられている祖父は、今、空の中で私を見て、きっと微笑んでいるでしょう。私は、祖父のように、モンゴル民族のために貢献したいと思います。



サイ シュウ 蔡 世柔

(台湾出身)
東京芸術大学大学院
音楽研究科
ピアノ専攻 修士2年

私が尊敬している人物は母親です。

母を尊敬している理由は、3つあります。仕事と家事を両立しているところ、料理が上手なところ、そして動作がてきぱきしているところです。

私が幼い頃から両親は共働きをしていたのですが、私の家は祖父母と一緒に暮らしていないので家事は全て母がこなしています。毎日早起きをして洗濯物を干したり、朝ごはんを作るところから母の日常が始まります。そして、母はピアノの先生で毎日大勢の生徒たちとも向き合っていて真剣に指導しています。母の姿を見ると、自分も将来にこういう素晴らしい女性になりたいと思います。



ゾウ キシュン 曾 毅春

(中国・四川省出身)
一橋大学
商学部 学部2年

私はスティーブジョブズを尊敬しています。なぜなら彼は常に新しいことにチャレンジし、そして人間社会に多大な貢献をしたからです。

スティーブジョブズは20代の頃に大きな成功を収められたにもかかわらず、ビジネスの分野で新たなことをチャレンジし続けました。そして失敗して一度アップル社から追い出されたとしてもまたピクサー社を設立し、新たな分野でビジネスを始めました。そして彼が我々のライフスタイルを変えたといっても過言ではないぐらい、我々に革新的な製品を続々と提供してくれました。

私も彼みたいに常に自分のコンフォートゾーン（定位置）から出てチャレンジし、将来人間社会に貢献していきたいです。



イ サンギョ 李 常揆

(韓国出身)
早稲田大学
政治経済学部
経済学科 学部2年

私は「最も重要なリーダーの資質は何ですか？」という質問には、迷わず「信頼です。」と答えています。人と人の間に形成される関係というのは基本的に信頼を土台にするためです。私の母国、韓国では生涯にわたって誠実と信頼を強調した企業家がありました。彼は信頼を土台にした強い組織の作り方を知っていて、その組織と一緒に問題を解決する推進力と決断力を持っていました。その結果、彼の会社は戦後韓国の経済成長を主導し、故人となった今でも多くの人々に尊敬されています。私もいずれ、彼のように長い間、尊敬される人になりたいです。『あなたに遣って退けようとする信念があって、あなたの信念を信頼している人がいるなら万事が思い通りになるよ。』彼は現代グループの創設者である故鄭周永会長です。



ラ ベイジン
羅 珮菁
(台湾・台中市出身)
名古屋大学大学院
生命農学研究科
生命技術科学専攻 博士1年

私が尊敬している方は台湾の育種家で郭益全先生です。郭先生はイネの育種に一生を捧げ、台湾の育種史に革新的なイネ品種を開発しました。9年間をかけて開発した台農71号、別名「益全香米」は台農4号とキヌヒカリの交配種で、里芋の香りがし、産量や食味等が優れる香米です。しかし、郭先生は台農71号の開発が完全に来る前に過労から心臓病で没しました。郭先生の信念はイネを育てるなら良いイネを育て、お米を食べるなら良いお米を食べるという事でした。私もそのように思い、日本で育種学を学ぶ事にしました。いつか産量や食味等がより良いイネを開発し、農家さんがより良い生活出来るようにしたいです。



ユルダジェヴ・サドラ・ヌラエビッチ
(ウズベキスタン・ダシュケント出身)
名古屋大学大学院
国際開発研究科
国際協力専攻 博士1年

私が尊敬する人物は私の指導教員の川島富士雄先生です。その理由は以下の通りです。

まず、川島先生は専攻分野で非常に強い専門家です。川島先生の専門は国際経済法及び競争法です。私は、世界貿易機関への加盟を目指しているウズベキスタンの問題について研究をしているので、川島先生からいつも貴重なコメントを頂きます。そして、川島先生は非常に優しい教師ということです。川島先生にメールをした場合、いつも早く返信して下さるし、私の研究の欠点も優しく直して下さいます。私も川島先生のように強い専門家及び教師になり、母国の発展のために貢献することを目指しています。



キン コウカ
金 香花
(中国・黒龍江省出身)
京都大学大学院
文学研究科
思想文化学専攻 博士3年

内村鑑三を読んでいると、敬いの情に圧倒されます。間違っただけに対して「NO!」と言い、堂々と自分の道を歩んだ人物。激しい風に取り巻かれている荒野のただ真ん中に立っている、寂しくて凛々しい姿を思い浮かべます。その勇気が、200年後に、異国人である私に「あなたが歩んでいるのは自分の生なのか」と問いかけて来ます。生き方は、一人当たり一つしかない、と信じて疑いません。「人が生きる」ことだけは教科書がなく、死ぬ直前まで模索を続けるしかない、と思ったりします。知りきれない「明日」があるからこそ、「今日」が面白いのではないのでしょうか。生を遊べる生き方が身に付くような学校を建てることができたらと願います。



ハウ メイ
方 梅
(中国・河北省出身)
九州大学大学院
医学研究科
神経内科学専攻 博士3年

私の一番尊敬する人物といえば、当然ながら神経内科医者である母です。私が中学の時、家族は幸せな生活を送っていました。但し、母は海外留学の夢をいつも持っていて、日本の先進的な医学研究の魅力に引き付けられ、平成13年、37歳の母は毅然として日本に来ました。平成14年九州大学医学系学府博士課程に進学しました。その時、母は授業料や生活費をまかなうために、アルバイトを一生懸命にしていました。その間、それぞれの困難に直面しました。とても大変だったと思います。4年後、順調に卒業できました。母の強い意力に深く感服されました。そして、私の夢は母のように優秀な医者になることです。



竜の子近況報告



テニスの初心者

キム テヒョン
金 兌炫 (韓国・ソウル市)
 京都大学大学院 工学研究科 博士3年

「留学生活の変化」

最近、日夜研究室で博士学位のための論文を書く毎日でした。その日にちが重なると、体は太り、体力も落ちたことを感じ、これからのことを考えると生活習慣の改善をすべきだと思いました。そこで、毎日少しでも体を動かし、論文を書く以外のことをすることで精神状態の回復を狙い、4月からテニスを始めました。

また、最近では自分の勉強や知り合いを増やすために、消極的だった学会にも積極的に参加しています。



北京の万里の長城にて

レティ テュ ヴァン 《ヴィニ》
 (ベトナム・ハノイ)
 九州大学大学院 法学府 修士2年

「東アジアの開発に関するワークショップ」

私は九州大学大学院法学府で修士論文をまとめる最後の時間を送っています。これまでに留学生として多くの会議に出席し、中国では東アジアの開発に関するワークショップで、様々な課題について議論することができました。論文ではASEANにおける金融協力に焦点を当て、地域の政治経済状態に注目しています。発表を通して多くのアイデアや示唆を受けました。これらのイベントや指導教員および竜の子財団の奨学金の援助のもと、研究にさらに時間を費やし、論文を仕上げる予定です。私の研究を完成させ、夢であるNGOの仕事始めることを望んでいます。



東京ドームにて
 野球観戦

チン エンライ
陳 衍磊 (中国・浙江省)
 東京電機大学 工学部 4年

「研究を楽しんでいます」

昨年、パワーエレクトロニクス研究室に入り、現在は本格的に専門分野について研究をしています。研究テーマは小型通信基地局に用いる太陽光発電システムで、現在は提案回路のシミュレーションを行ったり、回路を作製しています。研究は難しいですが、いろいろな資料を調べることで、知識を得ることができました。

また、来年から進学することが決まりましたので、これからも研究を精一杯にやっていきたいと思っています。



研究室での研究

ボウ フクメイ
房 福明 (中国・湖南省出身)
 東京工業大学大学院 総合理工学研究科
 博士2年

「研究を頑張っています」

今年の10月には博士課程3年になります。現在は卒業できるように日夜頑張っています。5月にも中間審査がありました。中間審査はこれまでの研究についてどのような成果をあげたのか、これからはどのように進めるかを説明する発表でした。先生の厳しい条件を満たすまで、数えられないほどの回数で発表の直前までスライドの修正をしました。スライドを先生に送っても、ずっとだめだという返事をもらう一方でした。発表のストーリーがまだ一本に揃っていなかったため、聞き手に対してわかりにくいということでした。そのため、研究の背景、問題点、提案法がきちんとわかるように修正して、審査の先生たちを満足させるような発表をしました。また、研究も進みが遅いのですが、卒業できるように精一杯頑張っています。



発表者打ち合わせ後の
 帰途

キン ヨウカ
金 香花 (中国・黒龍江省出身)
 京都大学大学院 文学研究科
 思想文化学専攻 博士3年

「いつもの発表で新しい楽しみを」

今年の9月に行われる予定の「日本宗教学会」での発表を準備中です。今までは個人発表を主にしてきましたが、今回はパネル発表に参加する予定です。「漢字文化圏における聖書翻訳」というテーマのもとに、日本、中国と韓国の研究者たちが集まり、それぞれの角度からこの問題にアプローチします。同じ時代と相互の関わりと異なる状況が絡み合って、面白い現象を提示してくれると思います。個人発表も面白いですが、パネル発表も期待しています。



新潟第56回日本神経学会学術大会に参加
(本人：左)

ホウ メイ
方 梅 (中国・河北省出身)
九州大学大学院 医学研究科
神経内科学専攻 博士3年

「忙しい研究生生活」

今年は博士後期課程の3年目で、動物実験がたくさんあり、ストレスもどんどん増えています。昨年の10月から、2つの研究プロジェクトを同時に勉強しています。とても忙しかったです。研究成果を発表するため、5月22日に私と主人は新潟でおこなわれた第56回日本神経学会学術大会に参加しました。母もこの学会に参加し、久しぶりに会いました。主人、母と三人で会えて、とても幸せでした。研究のために疲れた体が癒される時間でした。



動物大好きなので、気分転換で動物園行きました。

マ センキ
馬 千駒 (中国 広東省出身)
北海道大学 法学研究科 民法専攻
修士課程2年

「初めましてよろしくお願いします」

この間、香港で行われた国際商事仲裁大会に参加しました。各国のロースクール生と知りあって、弁論しました。大変貴重な体験だと思います。そして、今学期に入り、猫の手も借りたいほど忙しくなりました。就職活動の他に、ゼミや論文も精一杯で頑張らなければならないからです。これからの一年間は、色んな意味で自分にとって大事であり、悔いのないように頑張りたいと思います。



ウズベキスタン・日本学術フォーラムにて

ユルダジェヴ・サドラ・ヌルラエビッチ
(ウズベキスタン ダシュケント出身)
名古屋大学大学院国際開発研究科
国際協力専攻 博士1年

「活発な学生生活の始まり」

4月から修士課程が始まり、活発な学生生活を感じて来ました。それで、授業をたくさん受け、非常に忙しい毎日です。その一方で最近、本学で行われたウズベキスタン・日本学術フォーラムに参加し、経済パネルで自分の研究を発表しました。その中で一番良い発表という証明書を頂きました。そこで来月の中旬に、立命館アジア太平洋大学で行われているアカデミックシンポジウムに招待されました。これからも頑張っていきたいです！



国際東方学者会議で台湾の村上春樹文学翻訳者頼明珠先生とともに

ケン エ
権 慧 (中国 山東省出身)
東京大学大学院
人文社会系研究科
アジア文化研究専攻 博士3年

「充実した日々を過ごしています～」

私は最近論文を頑張っております！先月国際東方学者会議に参加し、論文を発表しました。研究内容に興味を持ってくださった方が多く、読売新聞にも少し紹介されました。また、体力を保つため週一回ヨガと筋トレを始めました。今後も良い論文ができるようにがんばります！



合気道稽古の後

ゲン・ドク・ティエン(ベトナム・クアンビン省)
電気通信大学大学院

「研究と合気道を頑張っています」

今年3月に家族を連れて4年ぶりに帰国しました。日本で生まれた子供二人が実家に帰ったのは今回が初めてです。一度も会ったことがないお祖父さん、お祖母さんは孫に会うことができ、嬉しかったそうです。

最近は研究の実験とその成果を論文にまとめる日々楽しい研究生生活を送っています。それに合気道の進級審査のために稽古も頑張っています。博士過程が終了するとともに合気道の初段を取る目標を目指していますので、これからも頑張りたいと思います。

(担当：平成27年度竜の子奨学生 京都大学大学院 金香花)



竜の子(OB・OG)近況報告



2歳の誕生日にて

オウ エツライ
王 悦来 (中国・河北省保定市)
東京工業大学卒業

「子供は二歳になりました」

竜の子財団の皆様、お久しぶりです。2013年卒業生の王悦来です。
私は竜の子財団から卒業後、ファナック株式会社のロボット研究所で働き、今年で3年目になります。現在、ロボットの動作をより高速かつ正確にするようなソフトウェアを作っています。
山梨県の観光名所や美味しい食べ物などをよく知っています。もし富士山周辺に遊びにいらっしゃいましたら、是非教えて下さい。案内しますよ。子供も現在保育園で元気いっぱい頑張っています。



修了式に家族と

シン チュウカ
申 中華 (中国・河北省出身)
東京大学大学院卒業

「夢に向かって毎日一步」

竜の子財団の皆さん、お元気ですか。今年3月に東京大学大学院博士課程を修了したOBの申中華です。現在は同大学の農学生命科学研究科で研究職をつとめています。仕事をしながら育児するのは大変ですが、親の手も借りて何とかこなしています。写真は、3月修了式の日にとった家族写真で、後ろにあるのは大学内に最近に建てたハチ公と飼い主の上野英三郎博士の像です。上野公園や東大本郷キャンパスに立ち寄るときには、ぜひ声をかけて下さいね。



名古屋大学
博士修了式

キョ リンヨウ
許 臨揚 (中国・江蘇省)
名古屋大学大学院卒業

「激ムズの就活中」

博士を修了して、4ヶ月経ちました。元々5月19日に帰国して、中国の大学で研究職を探すつもりでしたが、直前になって改めました。そして、家族の反対を押し切って、1年間という限られた期間で日本の大学の研究職を探してみることにしました。日本の大学で研究室職を得ることが現段階での1番の夢です。1年間だけで失敗する可能性が高いかもしれませんが、今諦めることができないので、頑張りたいと思います。



下田の白浜海岸にて

シュ リン
朱 琳 (中国・黒龍江省)
東京外国語大学卒業

「厳しい職場ながら、楽しい会社人生活」

今年の2月にはまだ竜の子の奨学生としてみんなと一緒に会報誌を編集していたのに、今は卒業生として近況報告を書くなんて、なんか不思議に感じています。あっという間に社会人になって4ヶ月になりました。厳しい職場ですが、新しい友達をたくさん作ることができ、新しいこともいっぱい経験することができました。とても楽しい会社人生活です。毎日忙しい仕事ですが、先の週末には友達と南伊豆に行き、短い温泉旅行を楽しんできました。とても充実した毎日です！



福井県の東尋坊です！

リム・ヤンクアン (マレーシア)
名古屋大学大学院卒業

「やりがいを感じる日々」

社会人になって1年が経ちました。現在の仕事は自動車関連で、まだ発売していない自動車の評価や改善を主に担当しています。毎日新しいことが挑戦できて、やりがいを感じています。

今後も仕事に励んでいきたいです。
ではまた交流会で皆様とお会いできたらうれしいです！



会社の入社式に行くときの写真です。

モハメド・サルージ・イシレット・アハメド(スリランカ)
立命館アジア太平洋大学卒業

「京都で新生活」

2014年9月に立命館アジア太平洋大学を卒業しました。今年の4月から京都にある堀場製作所の海外営業部で働いています。

学校での専門は国際貿易でしたので、今会社でその知識が非常に役立っています。京都で住むのは初めてなので、休みの日はいつも京都の様々なところを観にいらしています。



社内野球の応援にて(本人右端)

イ デイヨン
李 大英(韓国・ソウル市)
北海道大学大学院卒業

「社内野球チームの応援」

社会人となってまだ日も浅いですが、思う存分楽しんでいます。7月末までは研修期間なのでまだ自分の仕事は渡されていないのですが、様々な部署の人たちと仲良くなるチャンスでもあり、楽しく研修を受けています。私が勤めている日本新薬は野球チームがありまして、パナソニックと野球試合がありました。平日の午後から仕事を休み、応援に行き、3対2で見事に勝ちました。京都市を代表として、夏から東京で行われる決勝戦に参加するそうです。そのとき、勝った瞬間の喜びを写真でお送りします。



娘と私

マ ヨウ
馬 耀(中国・遼寧省大連市)
筑波大学卒業

「育児を奮闘中」

皆様、ご無沙汰しております。2012年に財団を卒業した馬耀です。昨年の11月に出産して、今8ヶ月となった娘がいます。今年の4月から、以前からかけ持ちしていた非常勤講師の仕事再開して、週4で3つの大学を往復しています。世間が女性の社会進出と騒いでいる中、仕事と子育ての難しさを実感しているところです。



チョウ チュウ
張 冲(中国・浙江省平陽県)
立命館大学卒業

「仕事と育児頑張ります！」

竜の子財団の皆様、ご無沙汰しております。OBの張冲です。2012年から中国浙江省で起業しております。2013年に“湖州南太湖精英计划”に、2014年には浙江省“千人计划”に入選しました。事業は順調に進んでいます。事業内容は2つがあります。1、土壌修復をはじめとした農業事業。2、生活ゴミを有機肥料にする環境事業、そして、技術を利用して、環境と農業を連携し、資源リサイクルの循環システムを構築する。最終的には土壌改良により本格的な食安全問題を解決しようとしています。興味がある方はぜひ一緒に地元で事業を展開しましょう。浙江省に来られたらぜひご連絡下さい。

SPECIAL REPORT

● 私が日本留学から学んだこと ●

日本に留学することは、わたしを含め多くの人が夢見ることです。私は一昨年10月にベトナムに別れを告げ、新しい国での3年間の長い旅に出たのでした。ベトナムと日本はたくさんの異なる部分を持っていますが、同時に多くの共通部分も見つけました。日本に来る前は心配していましたが、日本での生活を楽しむことは難しくありませんでした。

日本でたくさん旅行できるように自動車免許をとろうと、ベトナムで車の運転の練習をしていました。しかしながら、日本に来ると公共交通機関がとても便利なことに気がつき



ベトナムの道

ました。大学は留学生が日本語を覚える機会と効果的な授業をたくさん用意してくれたので、旅行するのに十分な日本語を身につけることができました。加えて、日本人はとても

優しく協力的で、社会がとても安全でしたので、私はまたペーパードライバーに戻ってしまいました。最も良い交通機関は、いろいろな種類の電車でした。ベトナムでは、交通機関がよくなりつつあり日本をモデルとした電車とモノレールを建設中です。私は新幹線の窓から富士山を見て写真をとることを長年夢みてきました。ベトナムに富士山はありませんが、もしベトナムで電車が北部から南部にかけて走る日が来たら素晴らしいと思っています。

交通機関に加えて最も感動的だったことは、日本の食です。日本とベトナムの料理は、どちらも肉や魚や新鮮な野菜を含み健康的で栄養価に富んでいます。そのおかげで、日本の食にすぐ馴染むことができました。日本食の味と豪華な飾りつけとレストランでのサービスがとても好きです。日本でベトナム料理を作りたいと思った時は、スーパーですぐに同じ食材を手に入れることができました。ベトナム人がよく使い外国で手に入れたいと思う強い匂いや味のスパイスやチリを、カルディや地元のアジア食材店でとても簡単に買うことができました。同時に、ベランダにミントやバジルやチャービルといった野菜を育てています。



ベトナムのフォー

楽しい生活に加えて、学校での勉強も楽しみました。日本の教育

システムはよくオーガナイズされていて、学生が実社会でも使える知識を教えていました。幼稚園から大学まで、実地経験やフィールドワークを大切にしていると気がつきました。小学校を見学する機会がありましたが、日本の児童はとても独立心があり公共とプライベートとの区別ができていました。これらは、日本の家庭に加え日本の良い教育システムの結果だと思いました。

日本の学生は、自分の興味に合わせて専門学校や大学進学といったたくさんの選択肢を持っていると感じました。また、優秀でやる気のある学生に対して、奨学金のような政



日本の学校での実地見学にて
(本人左から2番目)

府と社会から多くのサポートを得ています。ベトナムの教育システムと比べると、日本はより学問的な知識に集中しています。また、ベトナムでは大学進学しか選択肢がありません。クラブ活動はあまり重要ではなく特別スキルの取得は、大学進学に失敗したときからの選択です。だから多くのベトナム人学生は、仕事を始めたときに目標を見失いがちです。ベトナムの奨学金はとても数が少なく、高等教育に偏っていて外国からの寄付に頼っています。これらの奨学金は生活費や学費をカバーできず、家庭からサポートのない学生は人生の選択肢が限られてしまいます。このような理由で、私は将来ベトナムで主に教育の発展のためのNGO等で働きたいです。ベトナムでやる気があり困難な状況にある学生によりフォーカスしたチャリティ活動をしたいです。もっと効果的な教育政策を政府に提言しもっと多くの学生が教育を受け、夢を追いかけられるような奨学金制度をつくりたいです。

日本留学は本当に意味のあるものでした。そして新しい自分をつくってくれました。いま私はより独立してより責任感もち、より将来何がしたいか理解しました。日本にいるごとに、よりよい可能性と希望をベトナムに出せるようになりました。そして、その一部になることを願っています。



中国の研修にて
(本人前列左から2番目)

編集後記

委員長 東海大学 トーブラサーボン タナワット

この度、竜の子奨学生の第16号会報誌の委員長を務めさせていただきました。正直不安でした。でも、編集委員の皆さんはとても素晴らしいです。私の日本語はまだ不十分だと思いますが、皆さんのご協力でうまく完成できました。改めて、日本語の勉強ができました。皆さん、本当にお疲れ様でした。

副委員長 早稲田大学 李 常揆

「竜の子奨学生」会報誌を最後まで読んでいただいた皆さん、ありがとうございます。
この度、竜の子財団第9期奨学生として第16号会報誌の副委員長を務めさせていただきました。日本語で行われる会議に参加した経験も会報の編集に意見を出した経験もありませんでしたので、最初は少し不安でした。しかし、本当に親切で有能な編集委員の皆さんのおかげで無事に会報の編集を終えられました。この会報誌を通して、少しでも奨学生として竜の子財団の役に立てる機会ができ、嬉しいです。とても楽しく幸せでした。ありがとうございます。

委員 筑波大学大学院 金 恩河

今回の会報誌の編集で「きれいな文章を書けるようになりたい!」と心から思いました。普段の生活では、自分の論文や研究室の論文を読んだり書いたりすることがすべてで、あまり他の分野や人の文章を読む機会はありませんでした。竜の子たちの文章を読みながら日本語はまだ不十分でも、温かい、頑張ろうという気持ちが伝わる文章など、人の気持ちが伝わる文章を読ませていただき、とても勉強になりました。私ももう少しきれいな文章が書けるように頑張ります。

委員 一橋大学 曾 毅春

この度編集委員として新たな会報誌の編集に参加することができ大変有意義でした。一番嬉しいと感じるのは、今回の編集を通してかなり編集委員のみなさんと仲良くなったことです。毎回の会議で学校から新宿までいくのが大変ですが、会議後に編集委員のみなさんとおいしいご飯を食べながら話すのが非常に楽しかったです。今年の新しい奨学生として竜の子財団に入ってきたばかりですが、これからは積極的に、より多くのイベントに参加していきたいと思います。

委員 京都大学大学院 金 香花

みなさんが書いた文章を読むことが楽しかったです。特に「新入生の自己紹介」と「近況報告」は皆さんの個人的特徴が読める場所だったので、新しい人との出会いの時間でした。また、編集員の皆さんとも知り合う時間になりました。特に一緒に泊まったレティエヴァンさんとは短かったですが楽しい会話の時間をもちました。

委員 九州大学大学院 レティエヴァン

修論で忙しかったのですが、竜の子雑誌編集会議に参加したことを後悔していません。スペシャルレポートを書くことで、私の考えをお伝えできてよかったです。他の奨学生とも交流できてよかったです。彼らはとても才能がありとても勤勉でした。

学ぶことがたくさんありました。竜の子財団の関係者様、そして友達をサポートに感謝します。彼らのサポートがなければ、完成することができませんでした。



第3回編集会議にて



第2回編集会議後にて



第1回編集会議にて



「その夢はきっと世界を変えていく」

夢 希望をかなえる為 僕たちは生きている
その夢はきっと世界を変えていく 平和のため
いろんな事があるけれども どんなときでも

作詞：竜の子奨学生

作曲：班 文林 (平成21年竜の子奨学生)

仲間とともに乗り越えて 竜の子の誇りを胸に
夢 希望をかなえる為 みんなは生きている
その夢はきっと世界を変えていく かならず